

2019年度資金分配団体 事業計画書（参考資料）

1. 事業名：こども食堂サポート機能設置事業
2. 団体名：一般社団法人全国食支援活動協力会
3. 助成事業の種類：新規事業
4. 事業期間：2020年度～2022年度

※本資料は申請時点の企画です。最新版は別途掲載されている事業計画書をご覧ください。

1.1 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

①日本の子どもを取りまく様々な問題

子どもの貧困率は近年、改善傾向にあるが子どもを取り巻く問題が『みえにくい』といった実態がある。
(友達に知られたくない・見た目は“普通”になることが多いため発見がしにくく支援に結びつかない)



②注目されている支援の場：『こども食堂』

2016年以降、**子どもの貧困が全国的に問題**となり、地域住民が自発的にこども食堂を開設し、子どもの食に対する支援の輪がひろがった。

★**無料・低価格**の食事の提供

★**貧困世帯だけでなく、誰でも利用可能**

★現在は**約3700か所**（2019）
（2016年は約300か所）

★**子どもの変化**を発見しやすい場



★**学習・体験機会**の提供が可能

★誰でも始めることができる

★**多様な形態で運営**されている

★**制度外**の存在

地域で子どもを見守り、育てていく機能を持つこども食堂

一方で、地域住民がこども食堂を運営するにあたって、こんな問題が…

○**こども食堂の運営基盤の脆弱性**⇒スタッフの人数・場所・金銭的負担などがあり持続しにくい

○**学校・関連機関との連携の壁**⇒関係の構築のノウハウがなく、孤立するこども食堂が多い

○**行政の支援体制の未整備**⇒急増したこども食堂への支援体制が追い付いていない

○解決したい課題（社会的ニーズ）

■子どもたちの食生活の乱れ

（自立した食習慣が身についていない・バランスの良い栄養が摂れてないなど）

■子どもたちが安心して通える地域の居場所が安定して整備されていない

○地域・分野

- ・地域：全国のうち、5都道府県・政令市を対象とする。
- ・分野：子ども・若者の健全育成

○該当する「優先的に解決すべき社会の諸課題」

- （1）経済的困窮等、家庭内に課題を抱える子どもの支援
- （2）日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
- （3）社会的孤立や差別の解消に向けた支援
- （4）安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援



○中長期的な事業目標

[事業終了後、7年後（2030）達成予定]



子どもたちの健全育成

- ・ こども食堂に子どもの成長を支える機能を持たせ、子ども達が歩いて通える範囲内に居場所を増やす
- ・ 地域での共食機会を通じ、食の知識・多様な食から選択する力・自立した食習慣の定着に貢献する



1.5[2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。]

2.1[2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。]

⇒全国各地に**強靱性のあるネットワークを構築**することで、地域内に**持続可能なインフラ環境を定着**させ、あらゆる災害や経済・社会状況の変化にも対応できるようにする。また、多様な立場の人たちが関わり**健康的な食事を通して安心・安全な場所**を地域のなかに増やし次世代を担う子どもたちの健全育成をする。

1.2原因分析と解決策

○子どもたちの食生活に関する原因分析

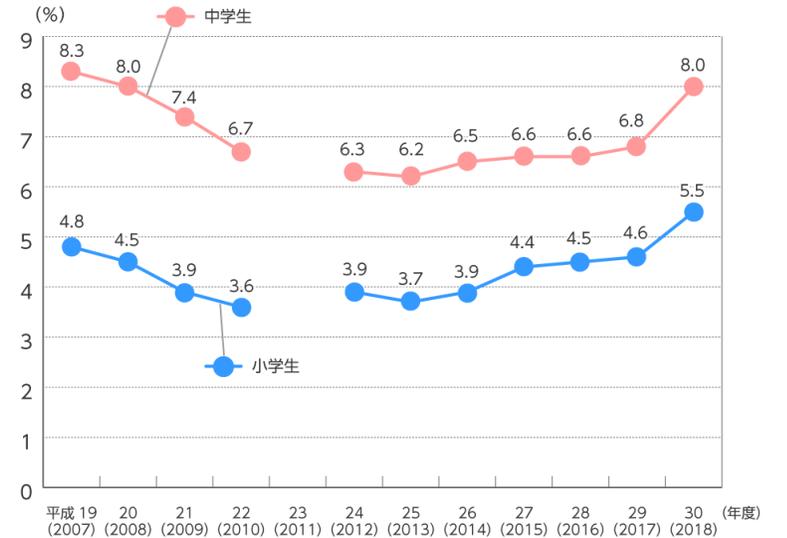
★現代社会の食環境

- ・親の生活リズムの変化などによる**食事時間の変化**
- ・海外からの**多様な食文化**の浸透と定着
- ・デリバリー食・中食などの利便性の高い食事の発達
- ・家族で**共食する時間**の確保の困難
- ・大量に生産され廃棄されるなどの**食品ロス問題**

ー子どもたちの食問題ー

- ・子どもの朝食欠食率（右図）が増加
- ・栄養バランスの偏りによる肥満・低体重問題が発生
- ・共食する時間の減少により食を通じたコミュニケーションが不足
- ・日常的にある食に対して[食の大切さ]を学ぶ機会の減少

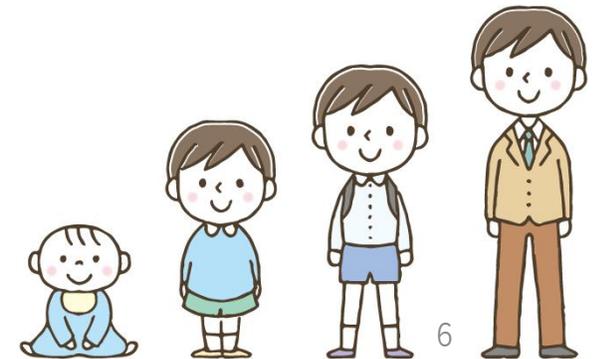
〈子どもの朝食欠食率の推移〉



農林水産省「平成30年度食育白書 第1部特集：健康寿命の延伸につながる食育の推進 p20コラム「子供の朝食欠食の状況について」」

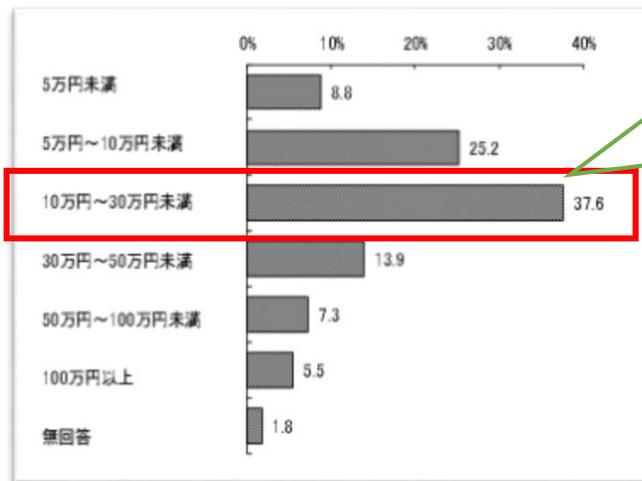
子どもたちが

正しい食の知識を得て、バランスを考えた食事を選択し、将来的に自立した生活のために食習慣を身に着けることが重要



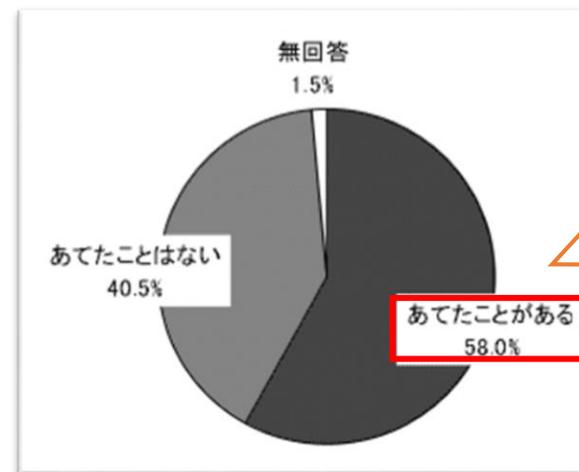
○こども食堂の運営に関する原因分析

★運営資金不足（農林水産省2018『こども食堂向けアンケート調査集計結果一覧』 調査実施：2017年11月）



こども食堂の運営費は
10万円～30万円未満/年

「過去1年間のこども食堂の運営費」
(n=274)



持ち出しを当てたこと
があると答えた団体

58.0%

「運営費に寄付や助成金以外の持ち出しをあてた経験」
(n=274)

★行政の支援体制不足

サービスの立ち上げやスタッフとしての参加を広く住民に促す取り組みを実施している割合を調べると、行政がこども食堂などに対しての支援や立ち上げ取り組みを実施している市町村はわずか**11.3%**となっている。

（平成30年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「地域住民の社会参加活動等を基盤とした互助促進の手法に関する調査研究事業」）

★こども食堂の運営側の声

こども食堂運営側の声としては、「関係機関からの協力が得られない」、「来てほしい子や親に来てもらえない」などが挙げられる。（農林水産省2018『こども食堂向けアンケート調査集計結果一覧』より）

○解決策の検討

もし、**地域ごとに子ども食堂サポートセンター**があったら…

【子ども食堂運営者】



小さな子ども食堂だから、**継続できるか不安**…

問題を抱えた子どもを発見したけど、どうしよう…

支援したいけど、どこに、**連絡すればいいのかわからない**…



【子ども食堂を支援したい企業・組織】

一体、**何が必要なのかな？**現場の声が知りたいなあ…



私たちが、繋がります！！

民間企業

公的機関



【子ども食堂サポートセンター】

学校教育機関

ヒト

子ども支援団体



【こども食堂サポートセンター】の設立

★地域にあるこども食堂の把握
〈信頼できるマッチングサポート〉 ⇒ 支援したい企業とのマッチング ⇒ **持続した食堂運営が可能**

★食材などの地域資源の獲得
〈コスト低減ルート〉 ⇒ 安く仕入れる方法の提供 ⇒ **安定した食事の提供**



★衛生管理などの向上
〈衛生管理・安全〉 ⇒ 衛生管理等の研修会・啓発 ⇒ **食中毒などの事故防止・安全な作業環境整備**

★食についての教育プログラム
〈食育プログラムの提供〉 ⇒ 食育への取り組み ⇒ **子どもたちの食を学ぶ機会の保障**



★関係機関との連携
〈連携〉 ⇒ 必要な支援情報の提供 ⇒ **困難を抱えた子どもへの適切な支援**

※本資料は申請時点の企画です。最新版は別途掲載されている事業計画書をご覧ください。

1.3.事業の内容と成果目標

事業活動により短期的に期待される成果目標

○こども食堂等を通じた子どもの共食機会の増加

事業終了時の目標：助成対象地域などにおける子どもの居場所数の増加

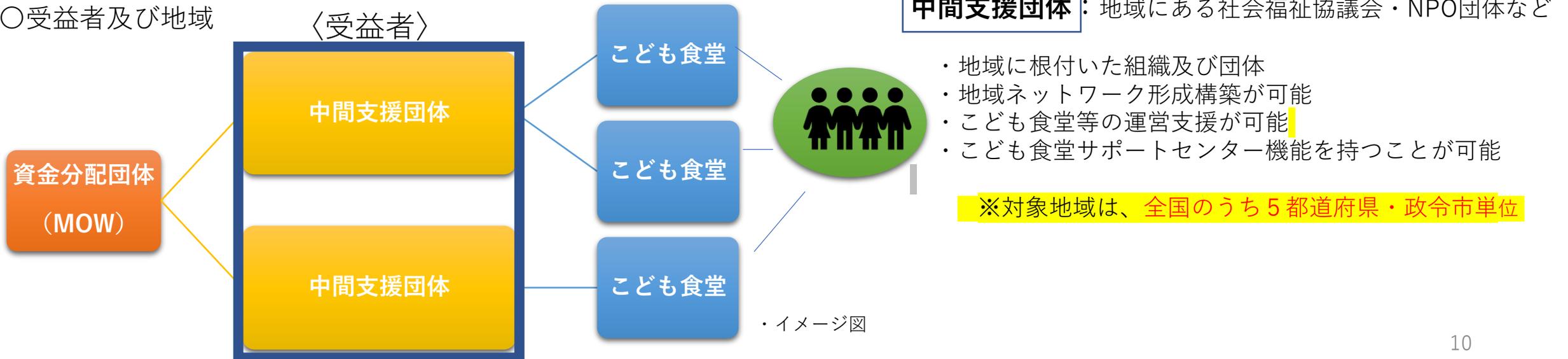
○持続可能なこども食堂運営の基盤整備

事業終了時の目標：こども食堂サポートセンターの自立運営

上記成果をもとに、地域密着型こども食堂サポートセンターのノウハウをまとめ、食育機能をもったこども食堂等子どもの居場所を充足させる。

・具体的な事業の内容を記載

○受益者及び地域



○事業内容

★資金分配団体が実行団体である中間支援団体に対して行うこと★

- 企業や団体などによる寄付をこども食堂とつなげる **マッチング機能と地域資源の開発に関する支援**
- こども食堂同士でノウハウを共有するための **ネットワーク形成に対する支援**
- **安全な作業環境整備**のための支援及び伴走
- 地域内の子どもの居場所づくり団体や関連団体・組織と円滑な連携体制を構築できるような **ノウハウの伝播と伴走等の支援**
- こども食堂などの場で「**食に向きあう体験・学習**」を開催するために、子どもに調理や共食など食を通じた体験プログラムの提供



食に関するイベントの開催・地域及びこども食堂間ネットワークの拡大（3年間）

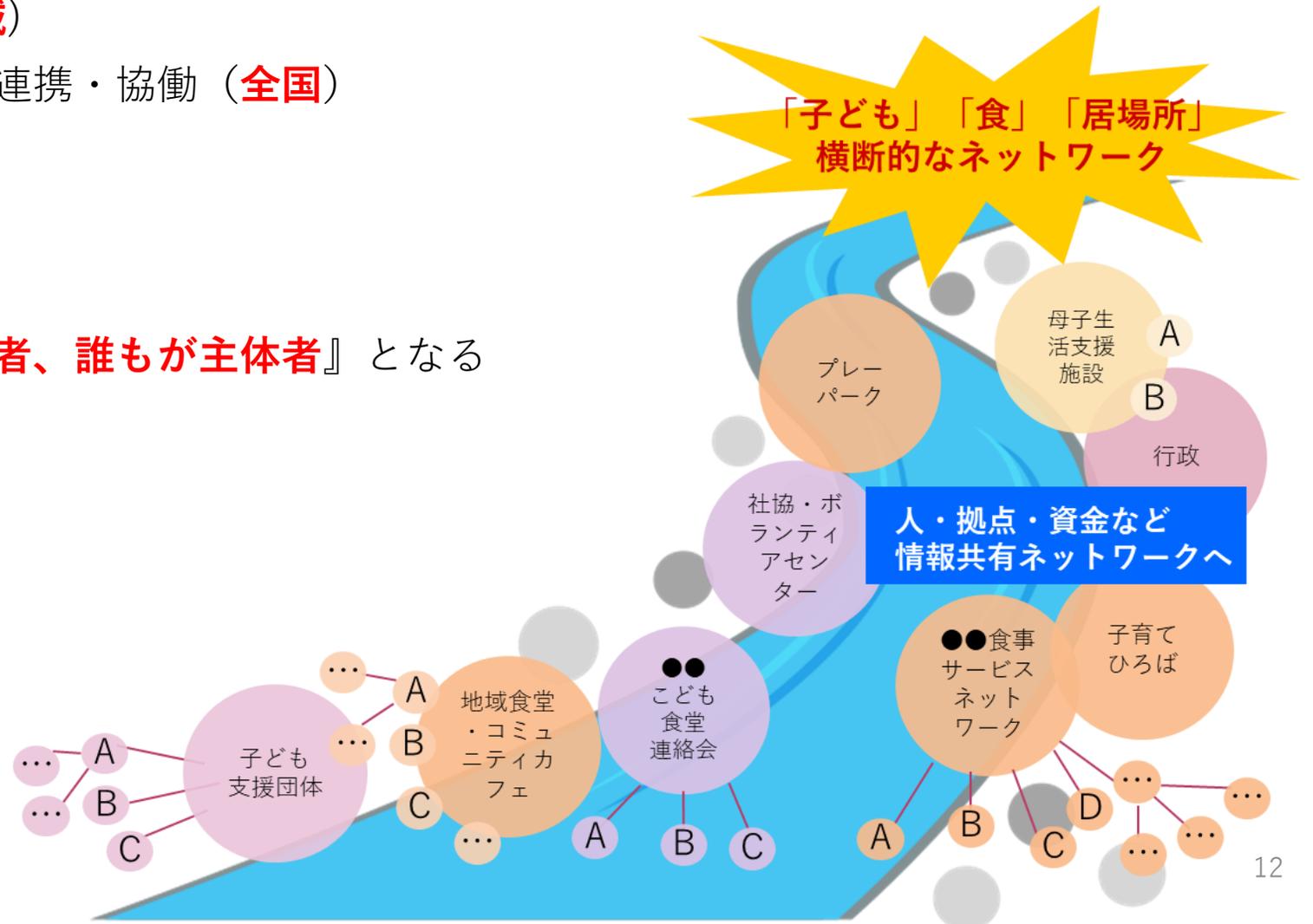
○アピールポイント（革新性・継続性・波及効果・連携と対話等）

★横断的なネットワークによる資源開発の仕組みの充実・発展

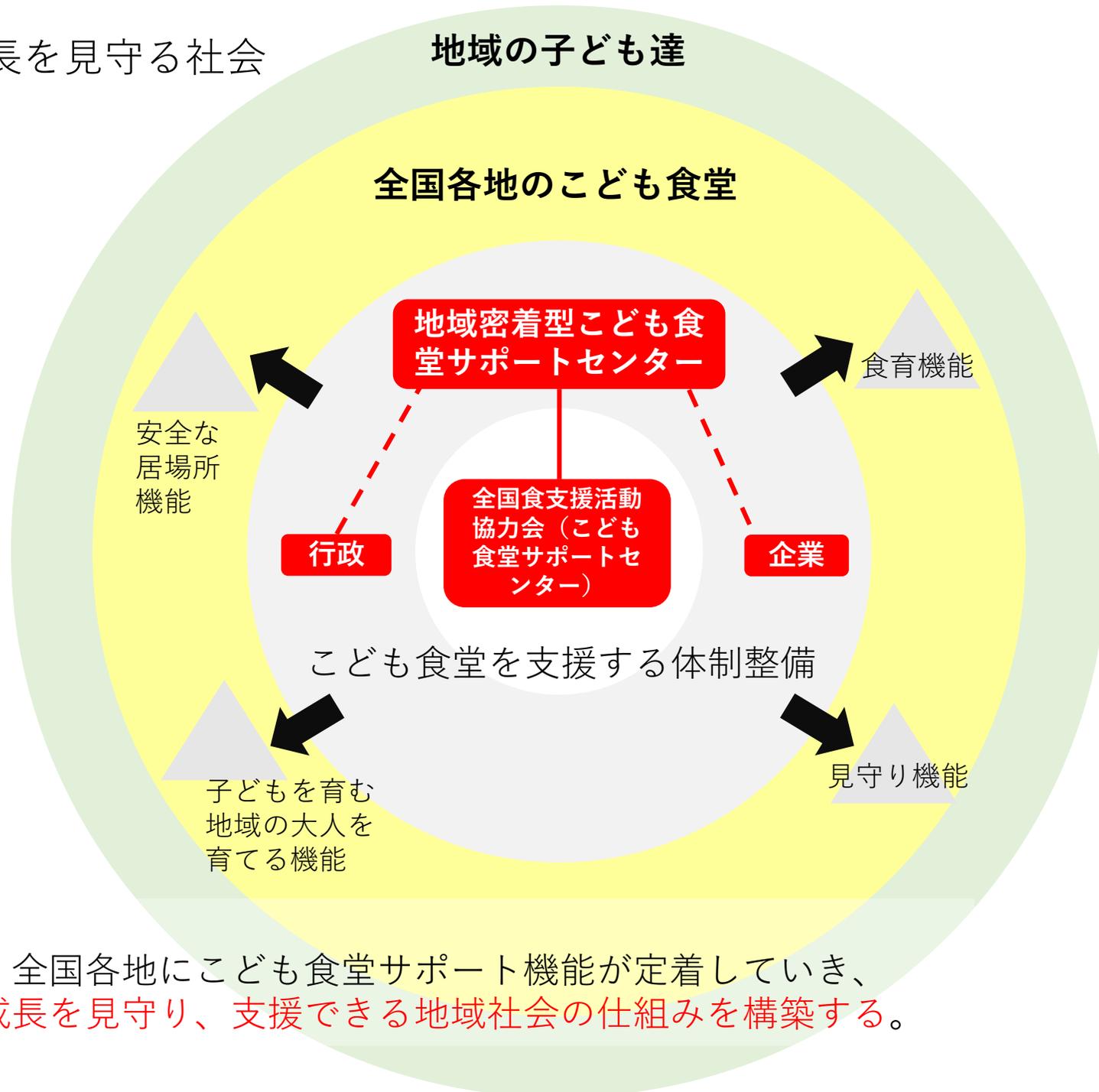
- ・あらゆる子ども支援団体（親子広場・プレーパーク・母子生活支援施設等）、地域住民、学校教育機関、関連団体及び組織・ヒトとの連携・協働(地域)
- ・民間企業、関連団体及び組織・ヒトとの連携・協働(全国)

★こども食堂等の価値の創出

- ・専門職や関係者でなくても『誰もが参加者、誰もが主体者』となる
- ・学習・教育の場として食育機能をもつ
- ・地域の居場所・発見の場として活用
- ・子どもの見守り機能



子どもの健やかな成長を見守る社会
に向けたイメージ像



<目標像>

公共政策へ働きかけ、全国各地にこども食堂サポート機能が定着していき、
住民主体で子どもの成長を見守り、支援できる地域社会の仕組みを構築する。